

白うさぎ

先日、ライフポートに行ったら「白いうさぎ」という喫茶がありました。連れ合いが珍しい名前というので、「ここにふさわしい店名だよ」と返すと、実に不思議な顔をされました。

うさぎは漁師にはつきものの動物です。寒くなり三河湾に北西の季節風が吹くと、波がしらが強風にあおられ何百匹もの白うさぎが跳ね跳ぶように見えます。こうなると漁どころか舟の運航も心配されます。岡の釣り人たちも竿をしまい帰宅にかかります。

「因幡の白うさぎ」もこの海洋現象と関係ある神話なのでしょう。季節はいつでしょうか？イメージとしては初夏が浮かびます。鮫(わに)、蒲の穂、白砂の海岸、大国主命の兄たちは鮫に皮をむかれたうさぎに「海水で洗い、山のとっぺんで乾かしなさい」とつげました(どこの山？)。

日本の野うさぎ(ニホンウサギ)は厳冬にならないと体毛が白くなりません。この季節には「白うさぎ」はいなかったらと思います。『古事記』原文では「素兎」だそうで、本居宣長が白と読ませたようです。また、原文の隠岐島には冬でも白くならないオキノウサギがいます。ますます白色ではない可能性は大きいようです。後年、波頭の白色イメージが優先してつくられた解釈なのでしょう。また、江戸期になると白うさぎと波の図柄は吉祥紋として大変喜ばれました。多産や運気上昇のシンボルということです。



黒うさぎ

アマミノクロウサギ、特別天然記念物。体長 42～51 センチ、体重 1.3～2.7 kg、背面が黒や暗褐色。夜行性、目、耳、手足、尾が小型。DNAからはウサギ科の中でも最も原始的な形態を有するそうです。推定、奄美大島に 2000～6000 頭、徳之島に 120～300 頭しかいない。野犬、野猫、マングースになどより捕食され、絶滅危惧種として認定されています。NHKの動物番組で母親が子に授乳し終わったら完全に穴に埋めてしまう姿が観られたのが印象的でした(ハブに食べられるのを防ぐため)。じつに賢くて気高い母さんうさぎでした。(M)